

邸園の概要

所在地	三浦市三崎 2 丁目 11-3
建設年	店蔵・母屋 明治 35 年 (1902) 頃 土蔵 大正 6 年 (1917) 新座敷 昭和 7 年 (1932)
構造	店蔵 木骨石造・土蔵／2 階建／瓦葺切妻 母屋 木造／平屋建／瓦葺寄棟 土蔵 木造／2 階建／瓦葺切妻 新座敷 木造／平屋建／瓦葺寄棟



明治ゆかりの邸園

チャッキラコ・三崎昭和館は、明治期に建設された蔵造りの商家建築です。

邸園の概略

チャッキラコ・三崎昭和館（小牧家住宅）は、三崎町の町家の特徴である石造を採用した土蔵造の建物です。

三崎は、近世には幕末水軍の本拠地や廻船の寄港地として栄え、近代には漁業港として知られています。現在でも、三崎下町地区には歴史ある蔵造の建物が点在しており、重厚な店蔵を構える小牧家住宅はその中でも現存する最古の建物です。

店蔵は、明治 34 年 (1901) 2 月の「伊勢松の大火」で焼け残り、古材を用いて再建したとの伝承から、明治 35 年 (1902) 頃の建物とされています。その後、大正 6 年 (1917) に北側に土蔵を増築、昭和 7 年 (1932) に西側に新座敷を増築し、現在の姿になっています。

小牧家は、屋号を「伊勢六」といい、江戸末期から昭和初期まで酒・米を扱う地元の豪商として知られており、太平洋戦争で物資統制にあい、戦後は茶や日用品販売に転じ、平成 14 年 (2002) 頃まで営業していました。

現在は、株式会社三浦海業公社が、家主である小牧氏から建物をお借りし、三崎の伝統芸能チャッキラコに関する資料の常設展示や昭和の生活風景・歴史を伝承する展示等を行い、「チャッキラコ・三崎昭和館」として公開しています。